



母親の会
保延様による
正月版生け花

3学期がスタートしました!



早いもので年が明けて2週間が過ぎました。今年の正月は穏やかな天候に恵まれ、令和2年がスタートしました。1月のことを古くから日本では「睦月」と言っています。お正月に親しい人たちが集まって睦み合う、すなわち「仲良くしあう」ということから「睦月」とつけられたそうです。きっと皆様方の中でも、日頃なかなか会えない親戚の方々と仲良く過ごされたご家庭も多いのではないのでしょうか。今年の夏には東京オリンピック・パラリンピックが開催されるため、報道でもそれらの話題が多かったように思います。

さて、冬休み中は静まりかえっていましたが学校にも子どもたちの元気な姿と声もどってきました。そのおかげで、始業式の日から、いよいよ3学期が始まったなという気持ちにさせてくれました。次の学年につながるまとめの学期となりますが、本年もよろしくお願いいたします。

始業式での話の一部より



校長の話より

『時間を大切に!』

さあ、3学期になりました。3学期は一番短い学期ですが、次の学年につながるとても大切な学期です。何もなくても4月にはなります。そして4月になれば皆さんは、それぞれ1つ学年が上がります。何もなくても、自然にそうなります。

でも私は、皆さんにそんな風に学年を上がって行ってほしいありません。そうではなく、「この3学期は、次の学年に上がっていくための大事な時間だ」という、しっかりとした気持ちを持って過ごしてほしいのです。苦手なことや、やり残したことがあれば、最後まであきらめずに、取り組んでほしいのです。

そう考えると3学期は、階段を上がるのに似ています。ということかと言いますと、階段を上がる時、私たちは、一步一步上がっていきます。最初に右足で一つ上がったとします。そして次に、もう一つの足、左足を出しますね。最初の足は「時間」、後の足は「気持ち」と考えると良いでしょう。

最初の足を使うだけでは、階段を上げられません。もう一方の足を上げ、しかも、最初の足を追い越していかなければ、上には上がっていきませんね。それと同じことで、ただ最初の足を上げただけ、つまり、ポーッと時間を過ぎて、気がついたら1つ学年が上がっていた、というのでは本当に学年が上がったことにはなりません。左足もしっかり上げて、しかも、右足を追い越してはじめて階段を上げられるように、しっかりとした気持ち、がんばろうとする気持ち、強い気持ちをもって、3学期の約50日を過ごしてほしいです。その気持ちを持ち続けて3学期を終えた時、はじめて皆さんは、1つ、学年の階段を上った、と言えるでしょう。

4年Sさんの話より

私の冬休みの思い出の3つ目は、スヌーピーのぬいぐるみの真っ赤なベストをお母さんのおばあちゃんと一緒に作ったことです。スヌーピーに着せたらとてもかわいくなりました。

3学期にがんばりたいことは算数のわり算です。私は算数のわり算が苦手なので、たくさん練習して3学期中に克服したいと思います。そして、習い事の水泳のバタフライの大会でまた一位を取れるようにがんばりたいです。それから今年も音楽発表会の伴奏ができるようにこれからたくさん練習してがんばりたいと思います。

6年Mさんの話より

ぼくが冬休みで楽しかったことは、おばあちゃんの家へ行ったことです。みんな卓球やバトミントンをして、おいしい料理をたくさん食べました。そして近くのお寺に行って、手をたたくと竜の鳴き声をする鳴き竜というものをしたり、暗闇の中を手で探り歩いて鍵を見つけるといいことがあるという戒壇巡りに入ったりしました。

3学期はみんなと楽しい思い出をつくらせて、4月からは中学生としてがんばっていきたいです。

スキー教室に行ってきました！

今年も10日（金）に5・6年生のスキー教室が富士見高原スキー場で実施されました。今シーズンは、毎日のように日本列島各地で雪不足というニュースが流れていましたので、ゲレンデ状態が心配でした。しかし、あまり多くはなかった気温が低い日に、スノーマシンをフル稼働させて、ゲレンデ面には人工雪が敷きつめられていました。パウダースノーとは言えない硬めの雪でしたが、子どもたちはインストラクターの熱意あふれる指導のもと、技術習得に向けて一日スキーを楽しむことができました。



庁務員さんの活動から

1 段差解消！スロープ作製



上り下りも楽々！



頑丈な作り！

本校は造形的な造りの校舎で、いたるところにその工夫が見られます。しかし、築40年以上が経過していますので、痛んだり不便に感じたりする部分もあります。その1つが、大廊下から3・4年生玄関の所の段差です。設計当時はまだ、「バリアフリー」という言葉も考え方も一般化していない時代でした。しかし、今は『どのような人でも喜びを持って社会生活を送れる世の中にしていこう。』という考え方が浸透しています。

そこで、庁務員の熊谷さんが年末にかけて、工務店の方が作ったような立派なスロープを製作してくださいました。耐久性はもちろんですが、自宅で不要になったカーペットまで持ってきて貼り付けて下さったため、見栄えも市販品のようです。おかげで、台車に乗せた荷物も簡単に通過できるようになりました。

保護者の皆様もご来校の際は、ぜひスロープを歩いてみて下さい。



2 お互いの気持ちの通じ合い

庁務員の島田さんが年末に話していました。「最近子どもたちが気軽に話しかけてきたり、分からないことを尋ねてきたりするので、とても嬉しいのです。」この話を島田さんから聞いた私も大変嬉しくなりました。ふだんは子どもたちの活動とは異なる場所で働いていますので、なかなか子どもたちとの接点がありません。しかし、1日同じ校舎で過ごしていますので、子どもたちも安心して島田さんに話しかけられるのでしょう。島田さんと子どもたちの温かな心を感じました。

